

## 第23回 次世代シンポ 第4回世話人会議事録（公開用）

日時：令和6年5月31日（土）19:00～20:00

場所：晴々（京都市）

参加者（敬称略）

実行委員：笹野裕介（委員長）、浜田翔平、南條毅、徳川宗史、深谷圭介

世話人：植田浩史、榎窪成祥、大澤昂志、大多和正樹、大橋栄作、勝山彬、喜屋武龍二、栗原崇人、高山亜紀、澤崎鷹、白井孝宏、田上拓磨、樽井敦、中山淳、西山義剛、野地寿治、萩原浩一、松岡慶太郎、三代憲司、安井基博、山田強、山本耕介

欠席：荒江祥永、石田寛明、太田浩一朗、大高遵平、大類彩、中尾允泰

### I. 報告事項

#### 1. 第23回次世代シンポで気づいた点

資料1に基づき、今シンポジウムでの気づいた点（下記）が、実行委員から説明された。その中で、今回新しく取り組んだ点や、今後検討すべき事項について、以下に示す内容を中心に議論した。

##### 1. 参加登録・発表申込関連

- 直前参加申込の締切を前日に設定したが、直前に急遽仕事が入るのは事務局の負担になるため、3日前には締め切った方が良い。また、直前参加申込はオンラインのみ受け付けたが、対面の受付も検討の価値がある。
- 参加証の作成と参加者への送信は、スクリプトを作成し、自動化した。参加登録時に得た情報をコピー＆ペーストするだけで、参加者ごとに個別の参加証を簡単に送信できるようになり、大幅に省力化された。参加証の作成には Google フォームでの参加登録のデータを利用したが、本フォームでは、氏名の表記が統一されておらず、データ利用前に整理・確認の手間が生じた。具体的には、日本人の登録者がローマ字を用いたり、姓名の間にスペースがあつたりなかったり、全角と半角が混在したりするなど、表記揺れが見られた。こうした混乱を避けるためには、「日本人の方は日本語でご記入ください」など、より明確な入力指示を設けるべきだった。また、姓名を別々の入力欄に分けて設定することで、形式のばらつきを防ぐこともできたと考えられる。
- レクチャーシップ賞と口頭発表（ショートトーク含む）の同一研究室からの応募の可否のHPへの明記が必要である。口頭発表とショートトークの組み合わせも同様である。

##### 2. レクチャーシップ賞・優秀発表賞関連

- レクチャーシップ賞の再応募要件である「論文にして1報程度の進展」の書類審査での判断に時間を要した。「過去に応募歴があるか」、「前回応募時との内容の違い」の2点を記載する欄を設けると、審査がよりスムーズになると思われる。
- 優秀発表賞の応募資格について、ショートトークの扱いがHPに明記されていなかった。ショートトークの除外を明記する必要がある。

##### 3. 財務関係

- 実行委員の作業および参加者の手数料負担削減を目的に、クレジットカード決済システムの導入を検討したが、タイムスケジュールが厳しかったため断念した。参加者にも実行委員にもメリットが多く、第24回では導入を前向きに検討すればよいと考えられる。
- 予算提出（9月中旬）後、予算立てしていなかったポスター印刷を行った。予算提出までの時間は限られているが、前述のクレジットカード支払いシステム導入および高校生座談会企画で配布したお弁当代も含め、費用がかかる手立ては早めに議論し、予算に組み込めると良い。
- 会場費や招待講演者の航空券代、あるいは宿泊費、また高校生座談会などを考慮すると、今後も値上げ

した学会参加費を維持した方が良いと感じた。

- 座談会実施にあたり、高校生含め参加者全員に支給したお弁当代は雑費で精算した。お弁当代は予算立てしておらず、予算変更措置のため、理事会での承認が必要になったことから、次年度以降は予算に盛り込んだ方が良い。

#### 4. 広報関係

- 今年度学会ポスターの印刷と配布を行った。学会ポスターを見て参加してくださった人も多く、参加者数も増加し、一定の効果があったと思われる。ポスターは、進歩シンポとメドケムシンポで実行委員が手配りした。手配りすることで、参加しようと思っていただけたのかもしれない。
- 企業や香港の PI からの発表申込があり、発表者の多様化に成功した。なお、前者は実行委員の声かけによるものである。
- ウェブサイトを刷新するとともに、スマートフォン対応とした。

#### 5. 会場関係

- スライドのサイズについて 4:3 推奨と HP にアナウンスしたが、会場で映写してみると 16:9 の方がデッドスペースなく表示され（表示の大きさ自体は変わらないが）、結果的に「どちらでも良い」と修正のアナウンスを行う必要が生じた。可能であれば、自分で実際に映写してみて確認すべきである（映写のサイズはスクリーンではなく、プロジェクターに依存）。
- ご意見・ご質問フォームについて、後日郵送の手間が大きい紙ベースによる対応を廃止し、QR コードを通じた Google フォームによる回答に一本化した。当初、発表中も QR コードがずっと表示されていた方が良いだろうと考え、発表情報を紹介するサブプロジェクターに常に表示しておくことを考えていたが、QR コードの読み取り作業が禁止している動画・写真撮影と区別がつかないとの意見が出て断念した（一方で、休み時間は常に表示しておいた）。次回以降、要旨集や参加証（の裏）に QR コードが付いてあれば、配布や掲示の手間も省け良いかもしれない。  
→（会議後追記）ご意見・ご質問フォームからの投稿は 1 件に止まり、紙媒体で集めたときに比べると明らかに減少した。紙媒体の復活か、広報の強化か、あるいはその両方か、検討した方が良い。

#### 6. 高校生の座談会企画

- 植田さんによる「薬学と有機化学」についての講義（15 分程度）の後に 8 グループ（1 グループあたり 6~7 名）に分かれて座談会を行った。座談会では、各グループにアカデミアの研究者と企業研究員（もしくは企業研究員経験者）の 2 名が配置された。
- 座談会は盛会となり、1 時間程度時間を取った。その後、どの研究者にも質問できるフリータイムを設定し、熱心に質問をする高校生が多くみられた。
- 今回の反省や高校生からのアンケートを踏まえて 2~3 年座談会を継続し、その後も続けていくか検討していけばよいのではないか。
- 高校生の参加申込には高校の先生の協力が不可欠であり、次回以降も開催地周辺の高校につながりがある世話人の協力が必要である。

#### 7. 実行委員の増員について

- 今年度は実行委員を 4 名から 5 名に増員した。近年レクチャーシップ賞や招待講演の設定などで主に実行委員長と事務局の負担が大きくなる傾向があったが、負担の大きい HP 関係を DX 係が担ったことで事務局の負担が相当に軽減された。

## 2. レクチャーシップ賞の審査過程

資料 2 に基づきレクチャーシップ賞、優秀発表賞それぞれの審査員と、審査過程が委員長より説明された。

- ・レクチャーシップ賞について

審査対象演題は7件であり、選考委員会の議論の結果、松本晃先生（金沢大学）を受賞者に決定した。なお、講評は以下のとおりである。

<審査委員の講評文>

This year, we received seven applications from various areas related to synthetic organic chemistry, including catalytic chemistry, asymmetric synthesis, photochemistry, heterocyclic synthesis, and chemical biology, showcasing the broad range of research conducted in the field of pharmaceutical sciences. All presentations demonstrated exceptional quality and potential, making it a challenging task to select a single winner for the award. However, after careful deliberation, the review committee concluded that Dr. Matsumoto's presentation best demonstrated the originality and potential of the research, making it deserve the Lectureship Award.

- ・優秀発表賞について

審査員と利益相反がある演題が1件あり、その発表は4名で審査し、その平均値を入力した。審査の結果、森上綜合さん（千葉大院薬）、佐野颯さん（静岡県大院薬）、平田裕己さん（北大院薬、京大院理）の3名を受賞者に決定した。なお、講評は以下の通りである

<審査委員の講評文>

今回は、反応開発、全合成、ケミカルバイオロジーなど、多岐にわたる分野から多彩なご発表をいただきました。いずれも非常に質の高い発表で、審査は困難を極め、まさに甲乙つけがたい選考となりました。

そのような中で、以下のような点が選考の決め手となりました：

- ・若手らしいエネルギーと熱意が感じられる、活気のあるプレゼンテーションであったこと
- ・多くの実験を着実にこなしており、「自分の手でやっている」という研究主体性が伝わってきたこと
- ・研究内容が新規性・先進性に富み、チャレンジングなテーマに果敢に取り組んでいたこと
- ・そうした高度な内容を、聴衆に対して明快かつ論理的に伝えるプレゼンテーション力に優れていたこと
- ・質疑応答においても、落ち着いた態度で的確に対応し、理解の深さがうかがえたこと

以上の観点をもとに、慎重に選考を行い、受賞者を決定いたしました。

## II. 協 議 事 項

### 1. 世話人の引退と新世話人について

大多和正樹さん（立教大学理学部）から引退希望があったが、第3回世話人会で世話人増員の提案が承認されたことを踏まえ、引退希望を撤回された。新世話人候補として大多和さんが推薦した千成恒さん（北里大学大村智記念研究所）は、賛成多数により新世話人として承認された。